

特別支援学級 美術科学習指導案

日 時 平成29年11月15日(水) 5校時
学 級 (男子1名、女子1名、計2名)
場 所 美術室

- 1 題材名 教科書 美術1 出会いと広がり「一枚の紙から広がる世界」より
「たいらな紙から、いろんな形」～たくさんつなげて壁を飾ろう～

2 題材の目標

紙にさまざまな動きを加えることによって起きる効果に関心を持ち、壁を飾るという目的に沿って紙の組み合わせや特性をいかした表現の構想を練り、紙の特性や用具の扱い方を工夫して制作に取り組み、生活の中の美術の働きを感じ取ることができる。

特別支援学級での学習を通して積極的な発言態度や方法、コミュニケーション能力を養い、集団での学習における対話的な学びに取り組むことができる。

【美術への関心・意欲・態度】

- ・紙にさまざまな動きを加えることによって起きる効果に関心を持ち、主体的に制作に取り組もうとしている。
- ・自身が考えたこと、疑問に思ったことなどを相手に伝えようとしている。

【発想や構想の能力】

- ・壁を飾るという目的に沿って紙の特性や色の組み合わせをいかした表現の構想を練ることができる。
- ・対話などを通して他者の意見を受け取り、表現の構想を深めようとしている。

【創造的な技能】

- ・紙の特性や用具の扱い方を工夫して制作に取り組むことができる。
- ・用具の扱い方の工夫などをお互いに伝えあうことができる。

【鑑賞の能力】

- ・お互いの作品のよさに気付き、生活の中の美術の働きを感じ取ることができる。
- ・相手の作品のよさや、作品にこめた思いなど相手の言葉から受け取ろうとしている。

3 指導計画(全9時間)

時間	学習活動
1	題材の導入／デザイン構想①
2	デザイン構想②／素材体験①・半立体の星
3	素材体験②・立体の星
4	素材体験③・ペーパービーズ
5	制作①パーツの制作
6	制作②パーツの制作
7	制作③パーツの制作／組み立て計画 【本時】
8	組み立て
9	鑑賞

4 本時について

(1) 本時の目標

- ・壁を飾るという目的に沿って紙の特性や色の組み合わせをいかした表現の構想を練ることができる。【発想や構想の能力】
- ・対話などを通して他者の意見を受け取り、表現の構想を深めようとしている。【発想や構想の能力】
- ・紙の特性や用具の扱い方を工夫して制作に取り組むことができる。【創造的な技能】

(2) 本時の評価規準

観 点	B おおむね満足（評価方法）
発想や構想の能力 （指導場面 6）	壁を飾るという目的に沿って紙の特性や色の組み合わせをいかした表現の構想を練ることができる。（制作の様子、制作の記録、対話の様子）
発想や構想の能力 （指導場面 6）	対話などを通して他者の意見を受け取り、表現の構想を深めようとしている。（制作の様子、対話の様子）
創造的な技能 （指導場面 4）	紙の特性や用具の扱い方を工夫して制作に取り組むことができる。（制作の様子、制作の記録）

(3) 本時の指導

本題材では、本校の研究主題「主体的に学習に取り組む生徒の育成～対話的な学びを取り入れた授業の工夫を通して～」の達成のために、毎時間「制作の記録」の記入を行う。この取り組みにより、学習の振り返りを自分の言葉で表現すること、題材全体の見通しを持つことをねらいとしている。

本時の指導では授業の展開部分を前半、後半に分けて取り組みを行う。前半はそれぞれの作品のためのパーツ制作を行う。支援ツールとして「制作手順カード」を使い、制作の流れ、既習事項を個人で確認できるようにする。また制作活動の場所をそれぞれ設けることで、道具や手順の混乱がなくスムーズに制作に取り組めるようにする。制作したパーツについては生徒同士の対話場面を設ける。この活動によってお互いの色や形のよさについて感じ取れることをねらいとしている。後半では、制作したパーツを並べて組み立てや配置の計画を立てる。その際にも生徒同士の対話を促し、お互いの作品のよいところを見つけることによって、生徒が自己肯定感を得られるようにしていきたい。本時に計画したものは写真で記録してプリントに貼り付けることで、次時の活動への意欲付けを行っていきたい。

生徒A（1年男）	生徒B（1年女）
<p>道具や支援ツール等を活用することで、制作に自力で取り組むことができる。反復練習を行うことで微細な動きを身に付けることができるため、練習時間を取る、実際に動きのモデルを行うなどして個別の学習での習得を目指していきたい。表現の構想では、用意された選択肢の中から自分が表したいものに近いものを選択することができる。さらに主体的に表現の構想に取り組めるよう、個別の学習で既習事項の復習や、表現することの楽しさに触れ、自己肯定感を高められるよう指導し、集団の中での対話的学習に向けて、主体的に学習に取り組める力を養っていきたい。説明や指示を受ける場面では聴覚情報をあわせることで内容をより理解することができる。また、日常的な聴覚刺激の中で集中して制作に取り組むことができる。集団の中で生じる話し声や突発的な音にも対応できる力をつけていきたい。</p>	<p>道具や支援ツール等を活用することで、自力でパーツを制作することができる。個別学習を通して、道具を使えばできるという自己肯定感を養い、集団での学習においても抵抗なく道具を活用できるようにしていきたい。また、個別学習の中で自分の作品や相手の作品について自信を持って発表することができる。生徒同士の対話場面や教師との対話場面を細かく設定することによって発言への積極的な姿勢を養い、集団での対話的学習に向けて、力をつけていきたい。質問や支援の要請については、個別学習の中では自分から行うことができる。集団の中でも同様に質問や支援の要請を行えるよう、個別学習の中で力をつけていきたい。</p>

(4) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 ◎対話的な学び ◇評価	備考 ●支援の手立て
導入 5分	0 ジャージに着替えて道具をそろえ、時間前に着席する。	0 黒板に準備物、本時の課題、本時の取り組みの順番、記録記入と後片付けの時間を板書しておく。	板書は内容ごとに定位置にする
	1 前時の活動を振り返り、既習事項を思い出す。	1 制作手順カードや実物を使い、必要な道具などの場所と使い方をあわせて確認する。 ・制作物別に取り組む場所を設定する。	それぞれの場所に材料、道具を配置する

	2 プリント、制作の記録で本時の取り組みと流れを確認する。	2 全9時間のうちの何時間目であるか確認しながら課題を提示する。	●学習課題と授業の流れを意識付けるため、板書を示しながら口頭であわせて確認する
	学習課題：パーツを作ってつなげ方を計画しよう		
展開 37分	3 本時に制作するパーツを決定し、発表する。 4 パーツを制作する。	3 プリント等で各自の表したいイメージや形を確認させ、決定した内容について発表させる。【◎生徒同士の対話】 4 必要に応じて教師や他の人に質問をしても良いことを伝える。【◎教師との対話】 ・タイマーが鳴ったら自分の席に戻ることを確認する。 ・取り組みの様子を見守り、うまくいかない時は、本人が質問や要請をした場面でのみ支援する。	タイマーで時間を区切って取り組む 学習活動3・4は25分を目安とする
		◇ 紙の特性や用具の扱い方を工夫して制作に取り組むことができる。(制作の様子)	●要請方法は、「挙手して教師を呼ぶ」同様の場面を他の授業でも取り入れる ●支援ツール(制作手順カードなど)を用意する ●実際の動きを見せる ●発表内容の例文や定型文を提示する
	5 制作したパーツについて発表する。	5 いくつできたか、一番よくできたものはどれか発表させ、聞き手には感想を発表させる。【◎生徒同士の対話】	
	6 組み立ての構想を練る。 ・プリントなどを参考にパーツをつなげる順番に並べ、組み立て計画をたてる。	6 色や形の組み合わせ、並べ方に注目するよう促す。作例やお互いの作品を見る時間を設け、自分の作品について発表する。聞き手には相手の作品の良いところを見つけて、伝える活動をさせる。【◎生徒同士の対話】	プリントの他、教科書や作例を示し、計画の参考とする
		◇ 壁を飾るという目的に沿って紙の特性や色の組み合わせをいかした表現の構想を練ることができる。(制作の様子、対話の様子)	●発表の項目を例文や定型文の形で提示する
		◇ 対話などを通して他者の意見を受け取り、表現の構想を深めようとしている。(制作の様子、対話の様子)	
		・並びが決定したものは写真に撮影して、次回プリントに貼り付け、制作の見本とする。	●デジタルカメラで記録
終末 8分	7 制作の記録に本時の活動、振り返りを記入する。 8 次回の内容を確認する。 9 後片付けをする。	7 記入箇所と内容を言葉と視覚で確認しながら指示を出す。 ・記入内容に応じて発問し、振り返りが次の取り組みにつながるよう意識付けをする。【◎自己との対話】 8 制作の記録と口頭での確認を行う。 9 道具の片付け場所などが確認できるよう、指示を工夫する。	